

第353特殊運用群 定期保守整備 353rd SOG Perform Routine Maintenance

January 24, 2019

By Senior Airman Juan Torres
374th Airlift Wing Public Affairs

航空機を飛ばすことは簡単ではない。第353特殊作戦群第1分遣隊の空兵たちは、CV-22オスプレイの機体を飛行できる状態に保つため、一連の念入りな作業と綿密な手順で点検を行っている。

任務を成功させるために不可欠である彼らの仕事は、フェーズ・メンテナンス(段階整備)と呼ばれる方法を通して、航空機のあらゆる部品や箇所を点検することである。フェーズは、問題が発生する前にその箇所を識別し、航空機の寿命を延ばす保守整備の方法だ。

約70人の隊員が、24時間体制でこの整備作業を行っている。

「これらの航空機が、安全に飛行できることを確実にするために点検しなくてはならない規定の点検項目がある。航空機の全ての部品を調べ、それらが正しく機能していることを確認する。我々は、これらの航空機が安全かつ予定通りにバックアップできるよう、すべての箇所を点検する」と第353特殊作戦群CV-22プロダクション監督主任ジン・L・ヤム曹長は述べた。

CV-22は、飛行280時間後に総点検が行われる。整備士たちがこのよう定期整備を行うことは重要であり、それによって何百時間もの必要な飛行任務を遂行することが可能となる。

彼らの努力と献身的な働きが、いつ有事が発生しようとも航空機が任務を遂行できる態勢にあることを確実にしている。

「彼らは誰よりも懸命に任務にあたっている。彼らに代わる整備士はいない」とヤム曹長はコメントした。

